

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	医療情報学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18041	3	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	臨床薬理学 (Clinical Pharmacology)				
担当教員名	井上 肇				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要：薬がなぜ効果を現すのか？特定の薬が特定の疾病になぜ効果的なのか？その働きを理解して、疾病の原因も理解する。</p> <p>到達目標：生活習慣病を代表とする一般的な疾患についてその診断と病因（原因）を理解し、治療方法を学ぶことで、臨床薬理学の教養を得る。</p>					
準備学習等					
<p>○医学関連知識は誤った先入観があると、以降の学習に大変な障害になるため、復讐に重点を置くこと。</p> <p>○休み時間の5分、通学時の電車待ち時間5分などを利用し、当日の授業内容の教科書部分に目を通す癖（隙間勉強）を習慣づけること</p> <p>○薬理学知識は一般人には不要である。したがって、薬理学については無教養が教養であることを理解した上で、疑問点は積極的に質問すること。</p> <p>○医学系の講義がいくつもあるが、その各講義が独立しているわけではなく、全てが関連していることを忘れてはならない。したがって、他の関連講義内容を思い出しつつ、当該講義を受講すると、知識が相乗的に融合して理解が深まる。</p>					
成績評価の方法	出席率20%、小テスト20%、定期試験60%				
テキスト	いちばんやさしい 薬理学 成美堂出版 2017年				
参考図書	図書館所蔵 日本臨床薬学会編：臨床薬理学、医学書院、2011 田中千賀子、加藤隆一編：New 薬理学、南山堂、2011				

備 考	<p>○当該講義は、医師、歯科医師、薬剤師にとっては必須科目であるが、受講生にとっては、社会人になって必須な教科ではない。それだけに講義の集中力が削がれる傾向にある。しかし、職業上教養として身につけておいたことが活かされる時が必ず来ることを忘れてはならないようにしよう。</p> <p>○講義全体を細かに理解しようとせず、全体像を理解しよう。</p> <p>○学生の理解速度に応じて講義進度と内容を柔軟に変更する予定である。したがって、必ずしもシラバス通りに進行しないことを理解してください。</p> <p>○質問等は授業時間内および授業終了後に受け付けます。</p> <p>○卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図で確認すること。</p>
授 業 計 画	
<p>第 1 回 総論 1 : 薬理学の概念、薬物の作用とその発現機構</p> <p>第 2 回 総論 2 : 薬物の吸収、分布、代謝、排泄、薬物相互作用</p> <p>第 3 回 循環器疾患 (高血圧症・心不全)</p> <p>第 4 回 循環器疾患 (虚血性心疾患)</p> <p>第 5 回 呼吸器疾患 (上気道疾患・下気道疾患)</p> <p>第 6 回 呼吸器疾患 (気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・アレルギー)</p> <p>第 7 回 泌尿器系疾患 (慢性腎不全・ネフローゼ症候群)</p> <p>第 8 回 精神・神経疾患 (うつ病・統合失調症・パーキンソン病)</p> <p>第 9 回 代謝内分泌系疾患 (脂質異常症・痛風)</p> <p>第 10 回 代謝内分泌系疾患 (糖尿病)</p> <p>第 11 回 消化器系疾患 (下痢・便秘・炎症性腸疾患)</p> <p>第 12 回 消化器系疾患 (胃潰瘍)</p> <p>第 13 回 消化器系疾患 (肝胆道系疾患)</p> <p>第 14 回 悪性腫瘍</p> <p>第 15 回 まとめ・予備日</p>	